

市長メッセージ

「平和祈念式」の開催に当り、メッセージをお送りいたします。

1945年8月6日、一発の原子爆弾により広島市は廃きよと化し、何万人もの尊い命が奪われました。住み慣れた街を破壊され、大事な家族や友人を亡くした広島市民の心の痛みは、筆舌に尽くせるものではないのです。

今なお放射線に苦しむ被爆者が高齢化する中、私は、被爆者自身の被爆体験や平和への思いを次世代の人々が共有し、さらにその思いが世界に広がるようにしたいと考えています。そのことが、正に被爆者の悲願である核兵器の廃絶へとつながっていくからです。

そのため、広島市は4,700を超える加盟都市からなる平和市長会議を主宰し、広島に原爆が投下され75年は草木も生えないと言われた正にその年にあたる2020年までの核兵器廃絶を目指す「2020ビジョン」に取り組んでいます。

私は、核兵器廃絶に向けた世界的な気運をさらに高めるため、核保有国をはじめ各国政府の首脳が広島に集う核廃絶サミットの開催を働き掛けるなどにより、為政者を始め世界中の人々に、広島に来て被爆の記憶が残る現地を見、核兵器がいかに悲惨な人間的被害をもたらすかを理解し、被爆者と願いを共有していただきたいと考えています。

皆様も是非ともヒロシマと思いを共有し、また平和市長会議が目指す2020年までの核兵器廃絶の取組に御賛同下さり、人類の未来のため、そして世界恒久平和の実現に向け共に力を尽くし行動して下さることを心から期待しています。

終わりに、「平和祈念式」の御成功と皆様の今後ますますの御健勝と御多幸をお祈りいたします。

平成23年(2011年) 8月15日

広島市長 松井 一 實



CITY OF NAGASAKI

メッセージ

このたび、「平和祈念式」を開催されるにあたり、長崎市民を代表してご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、戦没者を追悼し、平和への思いを新たにするために、毎年「平和祈念式」を開催されていることに深く敬意を表します。

1945年8月9日11時2分、長崎は原子爆弾により破壊されました。数千度もの熱線と爆風、人体組織を細胞レベルから徹底して破壊する膨大な量の放射線により、一瞬にして街は廃墟と化し、7万4千人の尊い生命が奪われました。死をまぬがれた7万5千人の方々も心身に癒すことのできない傷を負い、被爆66年を迎える現在も多くの皆さまが放射線の後障害に苦しんでいます。

長崎市は、街の復興とともに、被爆地の責務として、被爆者や市民の皆様とともに世界恒久平和の実現と核兵器廃絶を訴え続けてきました。しかし、地球上にはまだ2万発以上の核兵器が存在しています。

昨年5月の核不拡散条約（NPT）再検討会議で「核兵器のない世界を実現、維持する上で必要な枠組みを確立すべく、すべての加盟国が特別な努力を払うことの必要性を強調する」と全会一致で合意しました。最終合意文書には潘基文国連事務総長の提案した「核兵器禁止条約（NWC）、あるいは相互に補強しあう別々の条約の枠組み」への言及がありました。しかし、この1年間核兵器禁止条約の多国間交渉が開始されていません。被爆地として、日本政府や国際社会に向けて、交渉の枠組み作りを訴えていかなければなりません。

核兵器の問題は、被爆地だけの問題ではなく、安全な未来をつくる事が出来るかどうか、私たちが共有している人類全体の問題です。今後も私たちは、NGOなど市民社会と連携し、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向けて努力して参ります。

国分寺市の皆様があらためて、戦争を再び繰り返してはならないという意思を強くされるとともに、今後も私たちと同じく、平和を願う思いを共有されることを期待いたします。

最後になりましたが、「平和祈念式」のご成功と皆様のご活躍、ご健勝を心から祈念申し上げます。

平成23年8月

長崎市長 田上 富久